



しりょうかんだより



No.7

きょうどしりょうかん
郷土資料館の庭には、^{むね} 2棟の土蔵が建っています。土蔵は、家の大切な道具類を^{ほかん} 保管する倉庫です。周囲の壁が土で^{あつ} 厚く^ぬ 塗り^{かた} 固められていて、火災にあっても中が燃えないような作りになっています。資料館の庭にあるのはいずれも^{ころも} 拳母地区に建っていたものを^{いちく} 移築したもので、明治40年に建てられたものと明治30年代に建てられた建物です。大きさは2間×3間（約3.64m×5.45m）の2階建てで、石垣が積まれて地面から約1.3m高く、^{やはぎがわ} 矢作川が^{はんらん} 氾濫しても中に水が入らない様になっています。土蔵の中に入ることができます。一度遊びに来てください。



とよたのれきし(中世2)

^{むらまちじだい}
(室町時代1：1338年～1573年)

鎌倉時代と同じく^{むらまちじだい} 室町時代になっても豊田市内で最も大きい^{しょうえん} 荘園・高橋荘の地頭であった中条氏は、勢力を保ち続けていました。拡大した高橋荘は、^{はん} 範囲が広がったため北方・東方・西方と分けられ、それぞれに代官のような役職が置かれていました。中条氏は室町幕府内でも^{ほうこうしゅう} 奉公衆という^{やくしよく} 役職につき有力家来として認められていました。また地元では、この頃にはすでに現在の^{かなや} 金谷町に^{ころもじょう} 衣城（金谷城）を^{きず} 築き、^{ぼだいじ} 菩提寺・^{ちようこうじ} 長興寺を建て、支配者としての地位を固めていました。また中条氏の家来として力をつけてきた^{いちぞく} 一族に、^{みやけ} 鈴木氏、三宅氏、^{なす} 那須氏などがいました。



^{ちゅうじょうひでなが} 中条秀長の墓（^{ちようこうじけいだい} 長興寺境内）

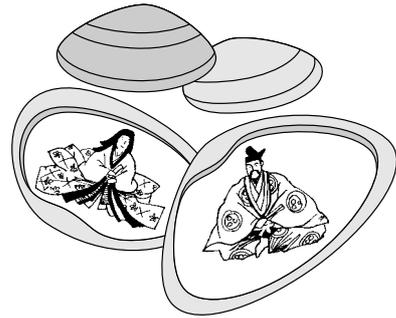
むかしのあそび
—貝あわせ—

かい
貝あわせってなあに？

「貝あわせ」とは、さほう、うほう、ふたくみにわかれて、めずらしい貝を持ち寄り、そのよさを競争するあそびです。平安時代の貴族の間でおこなわれ、貝の形や色、大きさ、めずらしさ、貝のしゅるいの多さなどで勝ち負けが決まりました。勝ち負けを決めるのは判者という役の人で、引き分けの時は持といいました。しかし、このあそびは鎌倉時代にはすたれてしまいました。

一方、「貝おおい」というあそびは、はまぐりの貝がらをかたほうずつにわけ、(一つを「地貝」、もう一つを「出貝」とよびます)地貝をふせてならべておいて、まんなかに出貝を一つずつだして、対になる地貝を多く探した方が勝ちというものです。この「貝おおい」というあそびが、「貝あわせ」とだんだんいわれるようになりました。

「貝あわせ」につかう「あわせ貝」は全部で360こです。貝の内側に、源氏物語の絵や、草花、鳥などの絵を左右に同じように描いたり、和歌の上の句と下の句をわけて描くようになりました。また、あわせ貝をいれるはこを「貝桶」といい、たいていは8角形で、地貝用のものと出貝用のものと2こで一組になってます。はまぐりは最初に対になっていた貝しかぴったりあわせられないので、縁起がよく、あわせ貝入りの貝桶は嫁入り道具の一つとなりました。



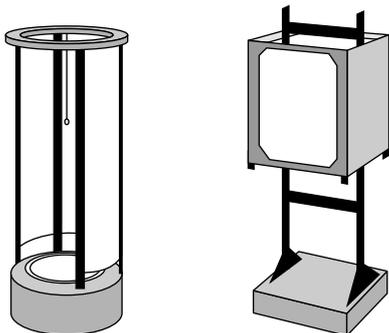
民 具

M I N G U

あ ん ど ん

あんどんは、むかしのあかりです。長方形をしていて、木と和紙できています。ろうそくをつかうので、いまのあかりとちがって、ぼんやりしたかんじのあかるさです。かいちゅうでんとうみたいなあんどんもありますが、そういうものは「がんどう」といいます。

きょうどしりょうかんのむかしのいえのなかにもあるので、ぜひみにきてください。



しりょうかんだより No.7

平成15年3月7日発行

編集・発行 豊田市郷土資料館

〒471 0079 豊田市陣中町1 21

でんわ 0565 32 6561

URL <http://www.toyota-rekihaku.com>

E-mail rekihaku@city.toyota.aichi.jp

郷土資料館では、みなさんが住む豊田市の歴史を紹介したり、大事な資料を集めたり、遺跡の発掘調査などを行っています。